

どんなことも “楽しさ” をスパイスに

太鼓の楽しさを伝えたい

朝の光も眩しく新緑の美しい季節がやってきた。萌黄色に輝く若葉の隙間から光のシャワーを浴びて今日もまた素敵なお祭りの一日が始まる。四人のお子さんの子育てにホット一息ついて、沢山の趣味と特技を持ち活躍している柴高地区にお住まいの井坂光江さん取材する。



「根っからのお祭り好きなのかな!？」とみのの〜れでのエピソードを楽しそうに語る井坂さん

みのり太鼓の兄弟分「楽ぬ」(らい)

井坂光江さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.22

井坂さんは「みのり太鼓」の兄弟分「楽ぬ」(らい)のメンバーの一員。昨年4月28日に立ち上げ、今年4月28日を迎える。メンバーは、20歳から57歳の社会人が中心。『太鼓を楽しむ』ことを目的に日々練習に励んでいる。一度もバチを触ったことのない人に加え、以前から「みのり太鼓」で練習していた人も参加している。井坂さんも以前は「みのり太鼓」の一員で太鼓に携わって5年になる。「大人は頭でリズムを覚えるようにするので覚えるに必死」と井坂さん。現在は一年間練習成果もあり、2曲ほど演奏出来るようになった。昨年12月には「みのり太鼓」主催の「太鼓らいぶ」に出演し1曲披露した。今では「楽ぬ」も徐々に人数が増え、これからが楽しみである。新たに入会してくれる人たちも、ストレッツ、基礎打ち、曲入りと順を追って練習するので必ず上達する。毎月2回、練習がある。興味のある方は是非参加してください。と井坂さんは参加を呼びかける。スタジオ発散や体力増進のために始めた太鼓も、今では音と

打ち姿に惹かれ、練習するようになった。「家族の理解があったからこそ今の自分がいる。」と井坂さんは話す。子どもに手がからなくなってきた今、自分の時間が持てるようになり旅行が趣味の井坂さんはグアムや沖縄、ヨサコイを見に札幌と忙しく飛び回っている。結婚25周年記念のプレゼントだ。そんな井坂さんと「みのり〜れ」の出会い、こけら落としに行われた「田んぼの神様」の時に衣装製作に参加したこと。井坂さんはリリー文化服装学院出身で洋服はかなりの腕前だ。「かえるの衣装やかえるの手袋、子ども達のマントやスポン、そして、太郎君の半ズボン：」懐かしそうに当時を振り返った。開館前の「みのり〜れ」のハワイ工にミシンを持ち込み、ブルーシートを敷き作業をした。大変な思いもしたが懐かしい思い出になったと井坂さん。現在は、よさこいソーランやヒップホップダンス等の衣装からウェディングドレスまで製作する。先日行われた「四季の里」からフェアティバル「四季の里」された演劇ファミリーM youオリジナル音楽劇「ウェディング・ロード」の中で使用されたパニエとドレスの裏地やベールの製

作に携わった。ドレスが仕上がるまでには何回も編み物教室の中本先生の家に集まり、打ち合わせや仮縫いをして美しい作品に仕上げた。また、よさこいソーランの衣装は年間20着くらいは縫う。イメージを渡され、型紙をおこし製作に取り掛かる。井坂さん自身も柴高のよさこいソーランのチームに所属し、活躍されている。「ふるさと小美玉まつり」前夜祭で井坂さんの製作した作品を見ることが出来る。井坂さんのもう一つの特技は盆踊り。柴高地区で行われる三代交流に毎年参加し、若い世代の人たちに大杉ばやしを教えている。ご自身が小学生の頃、盆踊り大会で優勝したのをきっかけに太鼓の音が踊りが大好きになったそう。井坂さんが大好きな入会のキッカケも自分がやりたくて、末娘が小学校4年生の時に一緒に入会したという。これからの夢は、「楽ぬ」の一員として、「みのり〜れ」の森のホールのお客様の前で太鼓を打ってみたい。と。また、支援隊として末永く「みのり〜れ」と関わって行きたいと語っていた。

※パニエ…ウェディングドレスやワンピースを膨らませる用途で用いられているアンダースカート